

第4回学習 基本調査 (2006)

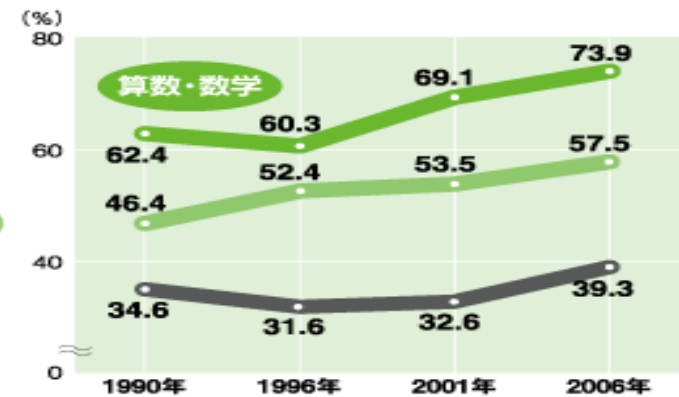
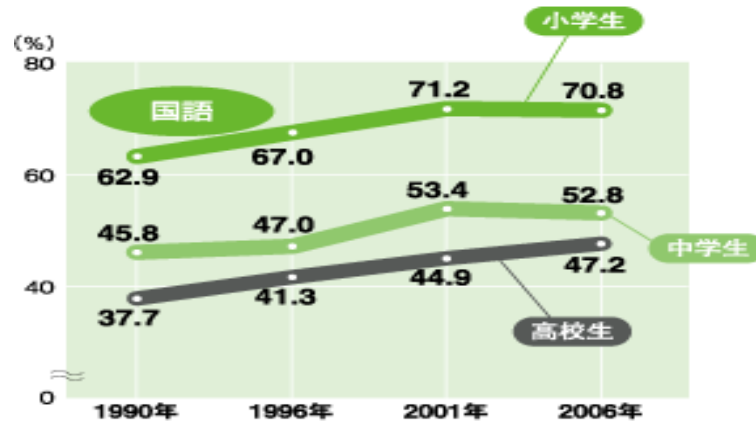
小5
東京23区
四国県庁所在地
東北郡部
2726名

中2
東京23区
四国県庁所在地
東北郡部
2371名

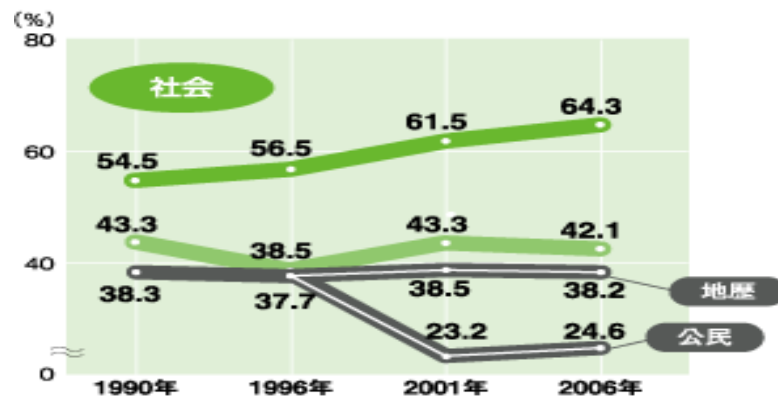
高2
都内
東北、四国、九州
の都市部、郡部
4464名

授業の理解度

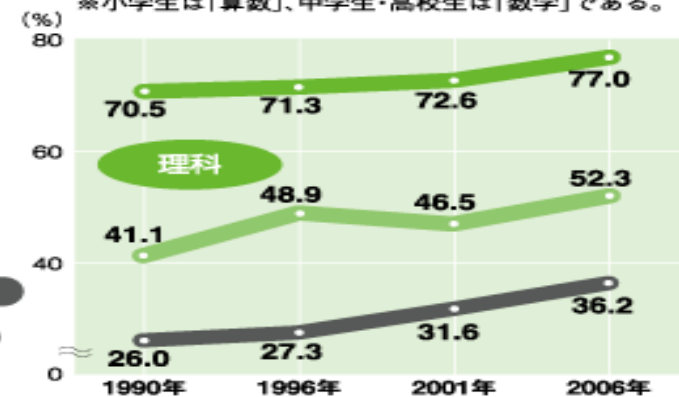
「ほとんどわかっている」+「70%くらいわかっている」の%



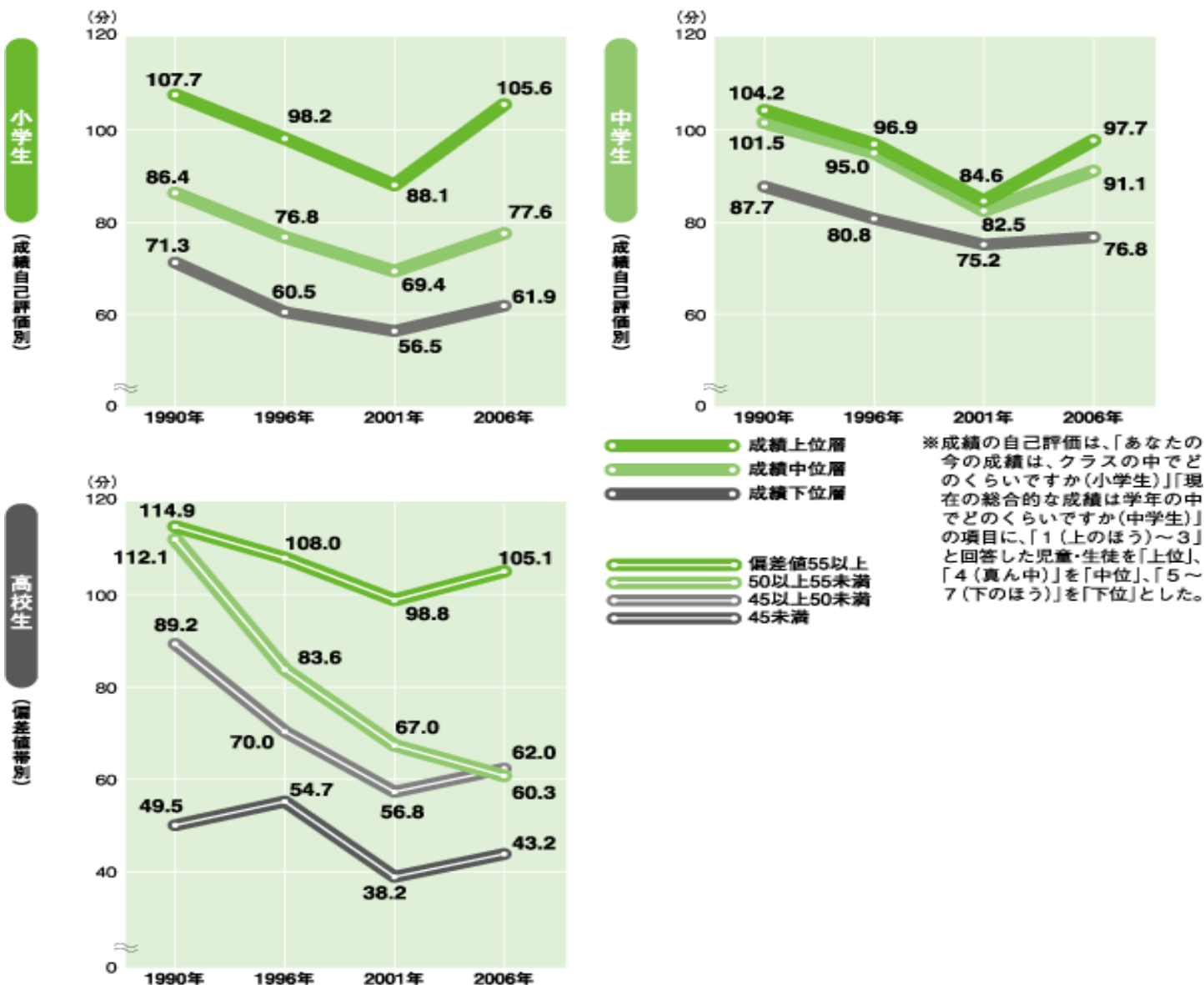
※小学生は「算数」、中学生・高校生は「数学」である。



※高校生の「社会」は2001年より「地歴」と「公民」に分けてたずねている。



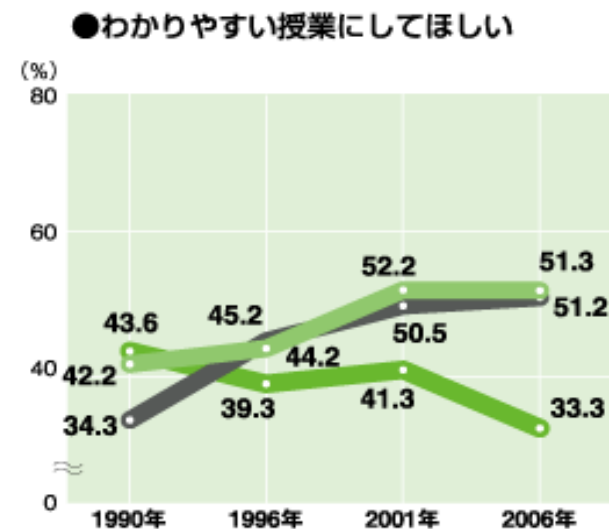
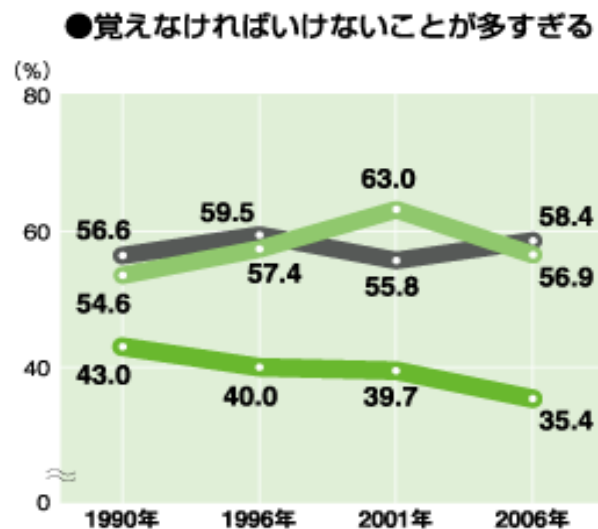
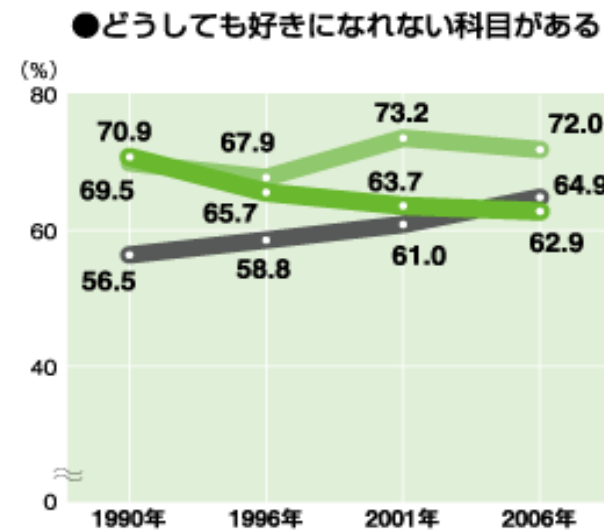
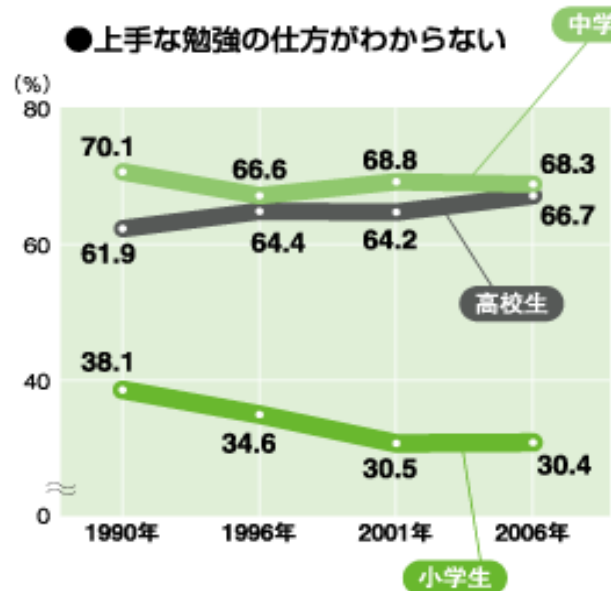
平日の平均家庭学習時間 (成績の自己評価別・偏差値帯別)



※高校生の偏差値は、弊社「進研模試」のデータを使用。

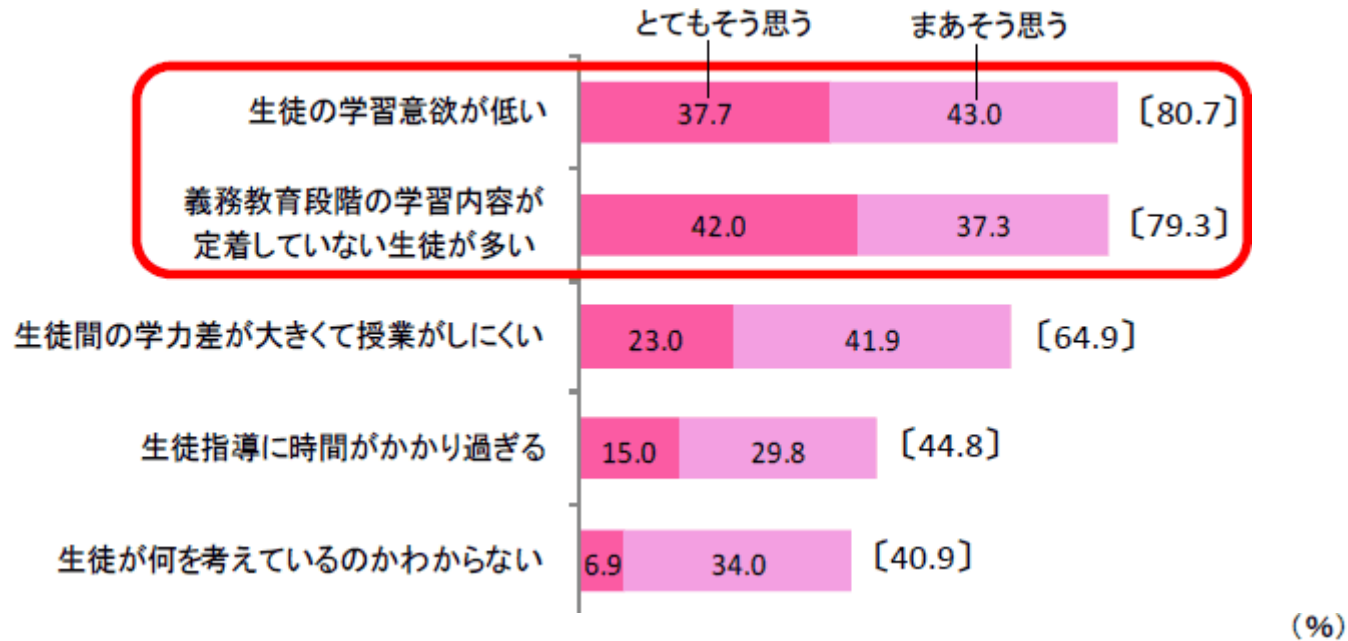
学習上の悩み

※複数回答。



第5回学習指導
基本調査
(2010)

指導上の課題(高校)



	全体	普通科	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	総合学科	専門学科
生徒の学習意欲が低い	80.7	78.3	49.2	76.6	92.9	91.3	89.5	87.3
義務教育段階の学習内容が定着していない生徒が多い	79.3	76.2	43.0	72.2	91.7	93.8	87.7	89.0
生徒間の学力差が大きくて授業がしにくい	64.9	63.1	45.5	57.6	74.9	77.6	71.4	71.1
生徒指導に時間がかかり過ぎる	44.8	40.9	13.8	28.4	59.1	74.4	58.2	55.3
生徒が何を考えているのかわからない	40.9	38.0	22.3	33.4	47.2	52.3	45.8	50.6

新教育課程調査
(2011)

全国公立小学校長、教員
校長245名
教員868名

保護者
インターネット調査
1240人×
6学年

Q 授業は、年間指導計画通りに進んでいますか。

図2-1 年間指導計画の実施状況(全体)

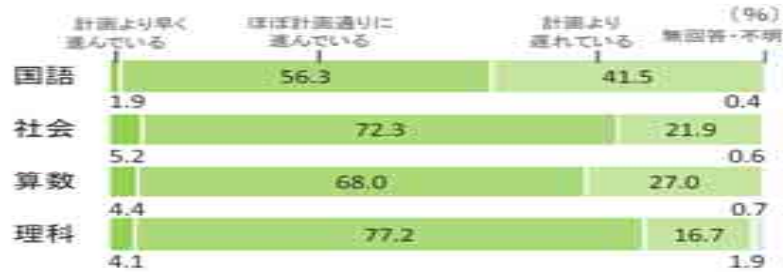


表2 年間指導計画からの遅れ(学年別)

	1年生 (136)	2年生 (121)	3年生 (129)	4年生 (132)	5年生 (136)	6年生 (141)
国語	27.9	38.0	52.3	49.2	51.9	33.6
社会			14.6	10.9	36.7	26.4
算数	19.5	44.1	23.6	33.6	26.5	16.5
理科			7.5	19.8	21.3	20.0

※「計画より遅れている」の%。
※30%以上の数値にアミカケをしている。
※()内はサンプル数。

Q 年間指導計画より遅れている理由は何ですか。

図2-2 年間指導計画からの遅れの理由



※複数回答。
※国語、社会、算数では、「観察・実験に時間がかかる」の項目をたずねていない。
※「計画より遅れている」と回答した教員のみ対象(国語n=351、社会n=115、算数n=229、理科n=69)。

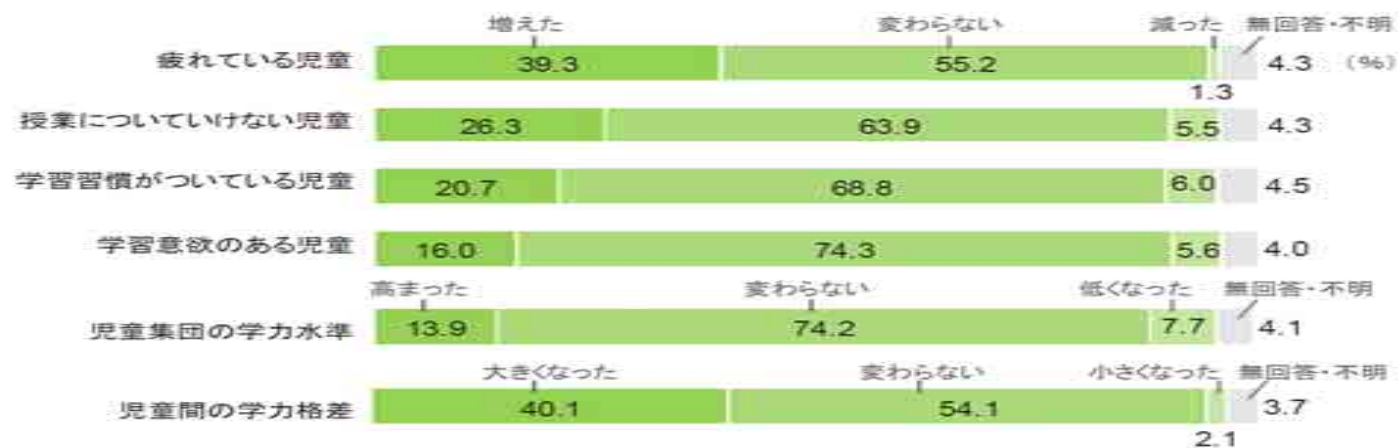
Q

新学習指導要領の実施(移行措置期間も含む)によって、
児童はどのように変わってきていると思いますか。

図5-1 児童の変化①(思考力・判断力・表現力等の育成にかかわる学習)



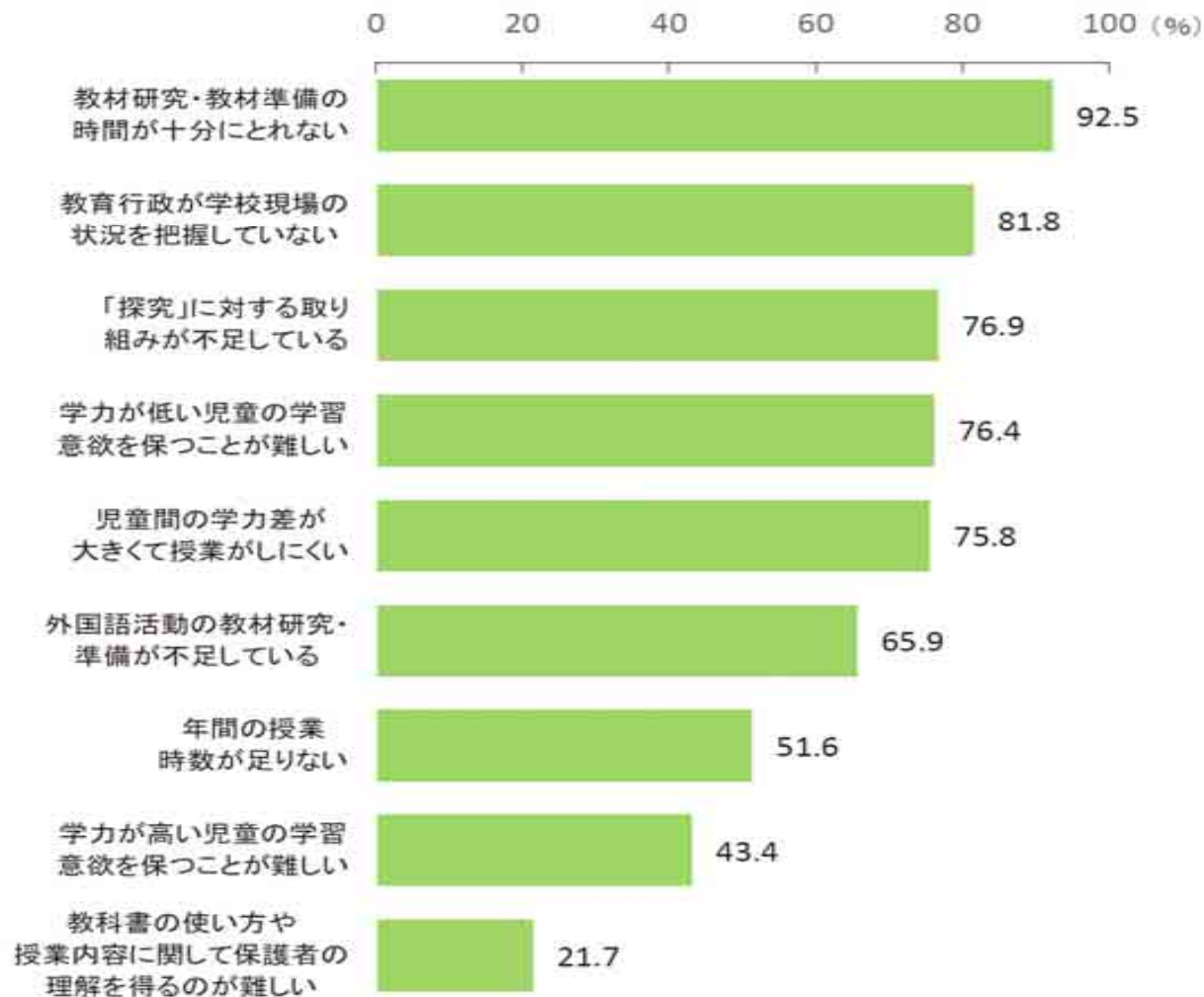
図5-2 児童の変化②(疲れ、授業理解、学習意欲、学力格差など)



Q

あなたは、次のような悩みをどれくらい感じていますか。

図8 教員の悩み



※ 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

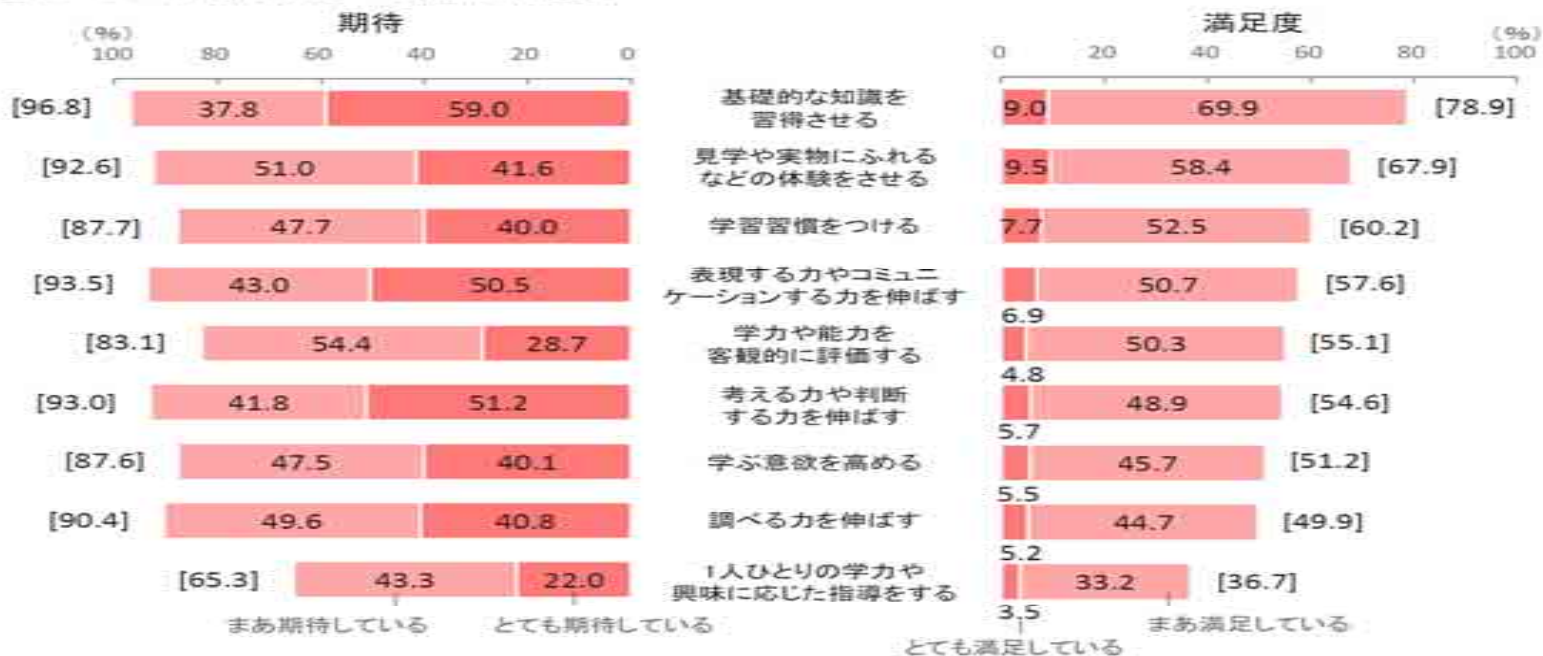
Q 総合的にみて、お子さまが通われている小学校の教育や指導などに満足していますか。

図12-1 学校への総合的な満足度



Q お子さまが通われている小学校にどのような教育や指導などを期待していますか。今年度1学期の学校の教育や指導などに、どれくらい満足していますか。

図12-2 1学期の学校への期待・満足度



※[]は、「とても期待(満足)している」+「まあ期待(満足)している」の%。

※「あまり期待(満足)していない」「まったく期待(満足)していない」「(満足度について)どちらともいえない」は省略している。

Q あなたは、現在の小学校教育における学習内容の量についてどう思いますか。

図12-3 学習内容の量への意識

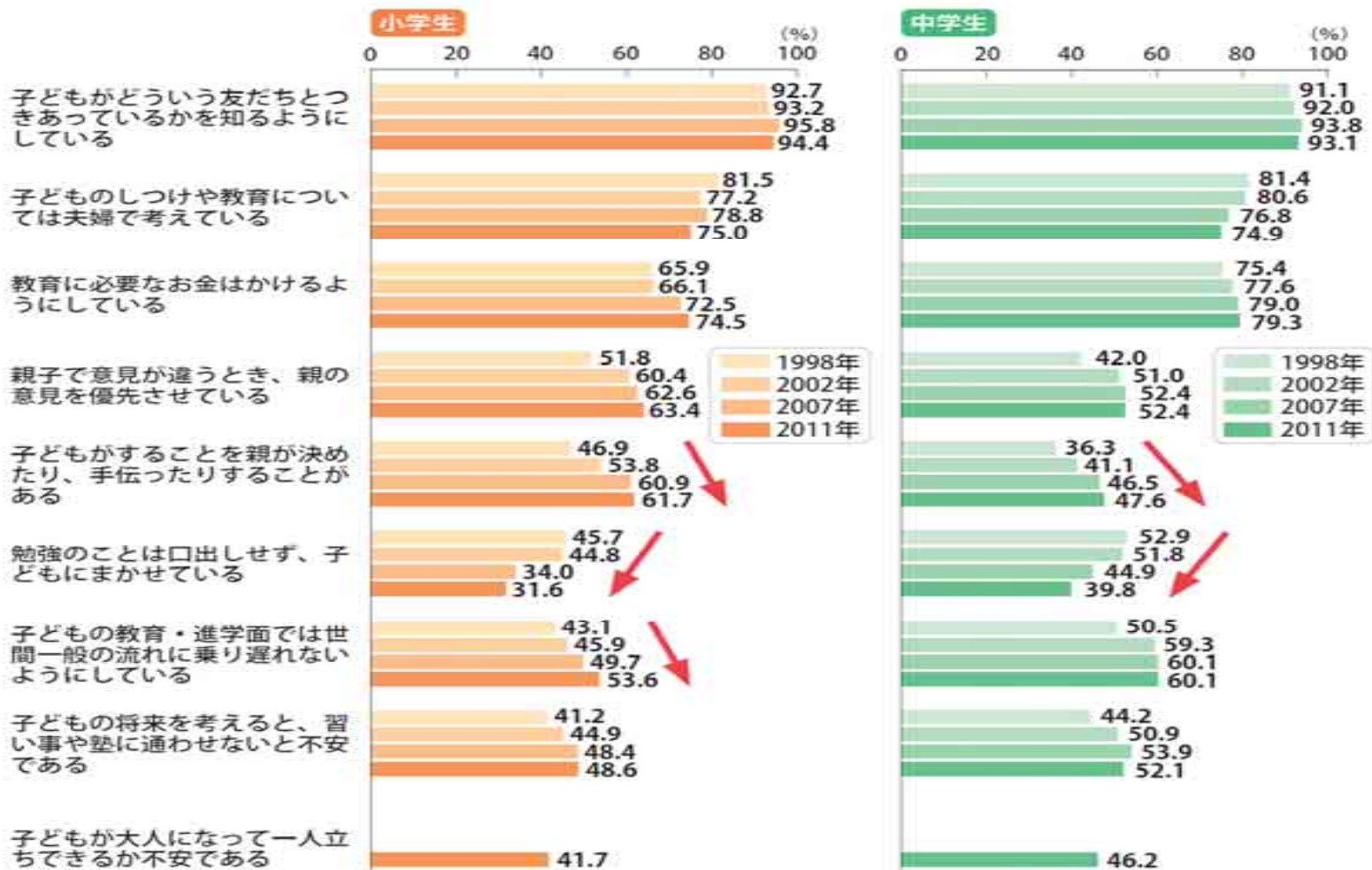


第4回子育て生活基本調査(2011)

首都圏
小1～中3の子どもを持つ保護者
7519名

Q あなたのご家庭ではお子様のしつけや教育について、次のようなことがどのくらいあてはまりますか。

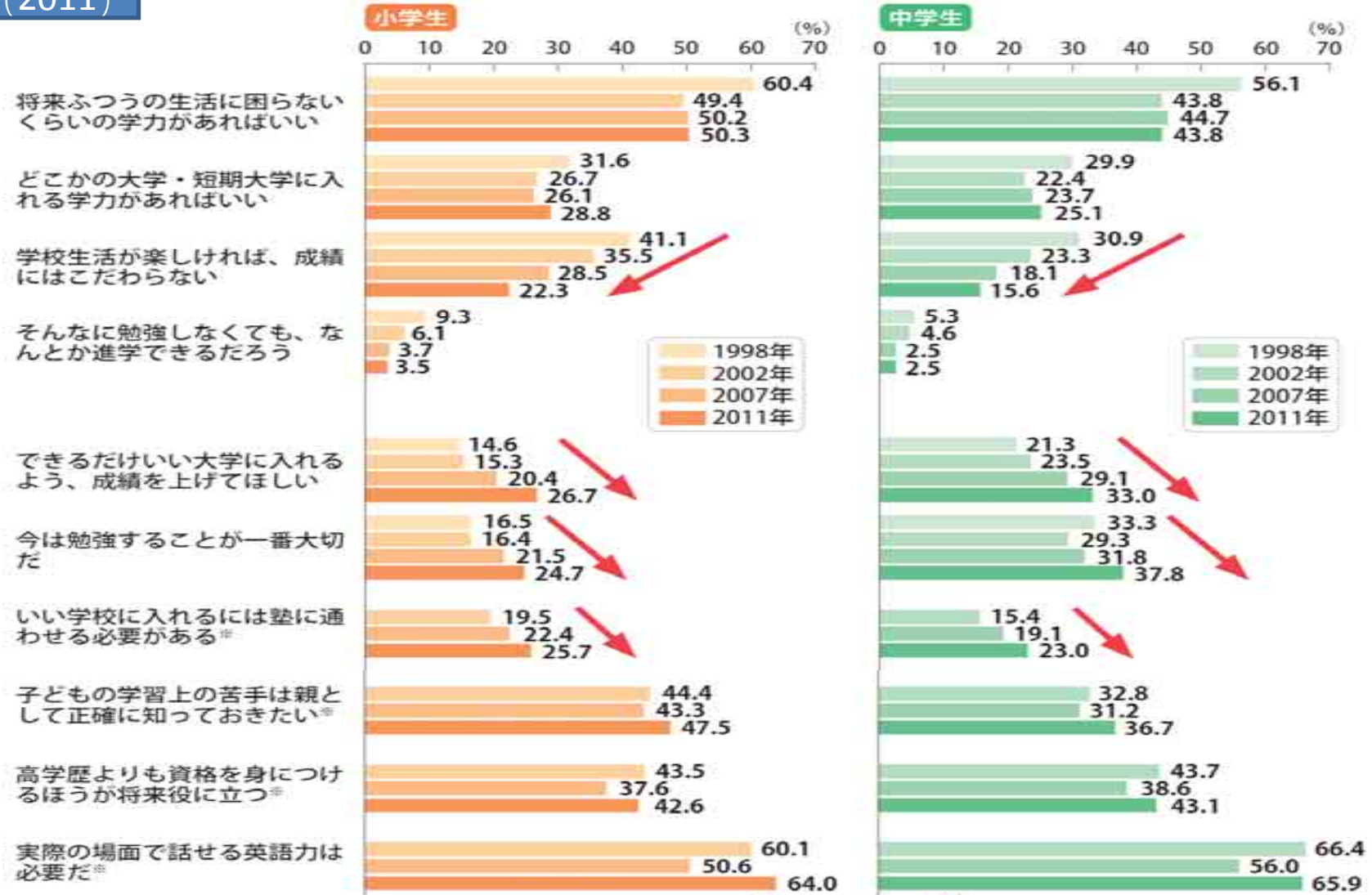
図1-1 家庭の教育方針（経年比較 学校段階別）



注1) 「とてもあてはまる」 + 「まああてはまる」の%。
 注2) 「小学生」は小3～小6生、「中学生」は中1～中3生の数値。
 注3) 12項目中、9項目を提示した。
 注4) 「子どもが大人になって一人立ちできるか不安である」は、1998年・2002年・2007年には該当項目なし。

第4回子育て生活基本調査(2011)

学力観・勉強観（経年比較 学校段階別）



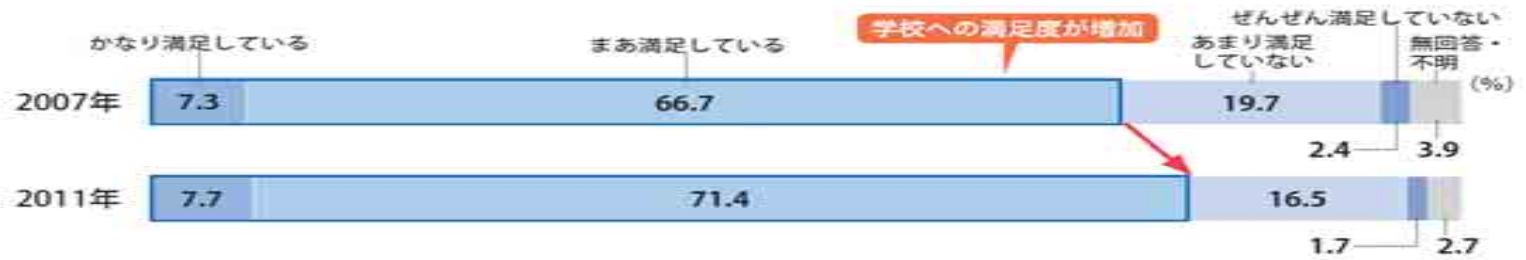
使える英語への意識も高まる

注1) 複数回答。
注2) 「小学生」は小3～小6生、「中学生」は中1～中3生の数値。
注3) ※の項目は1998年には該当項目なし。



総合的にみて、あなたは学校の取り組みや指導にどのくらい満足していますか。

図4-1 学校の取り組みや指導の総合満足度（経年比較）

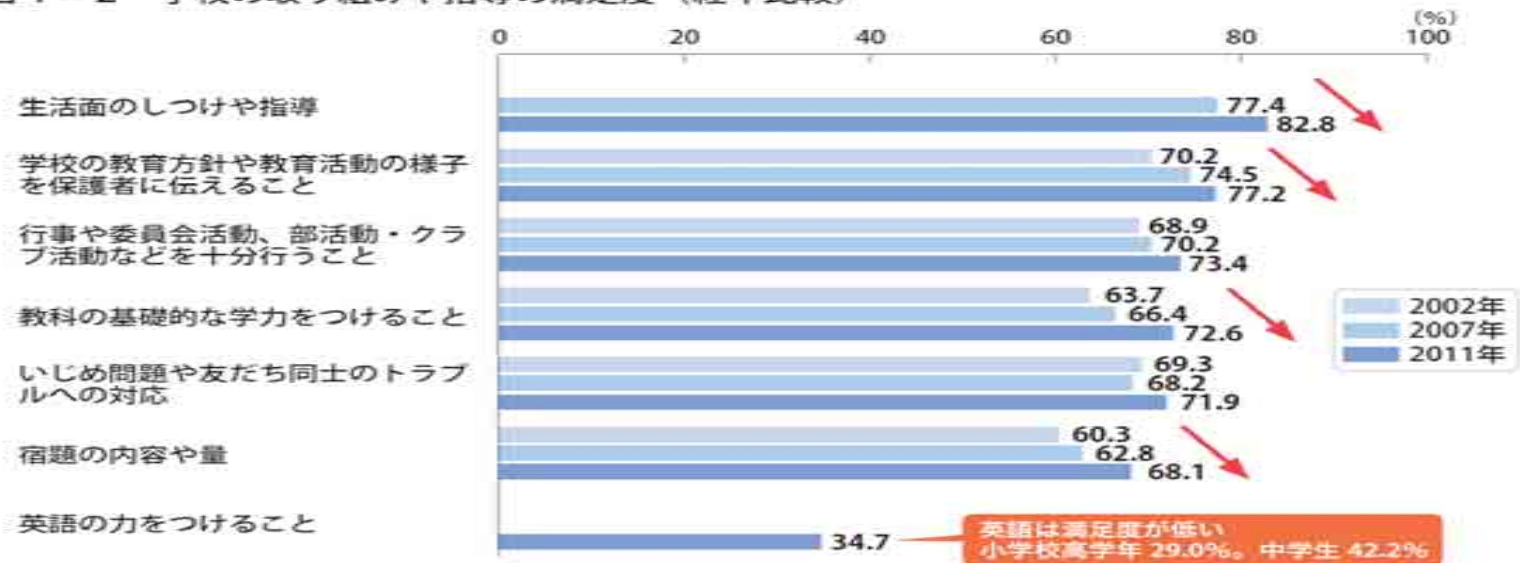


注) 小1～中3生の数値。



あなたは、次のような学校の取り組みや指導について、どのくらい満足していますか。

図4-2 学校の取り組みや指導の満足度（経年比較）

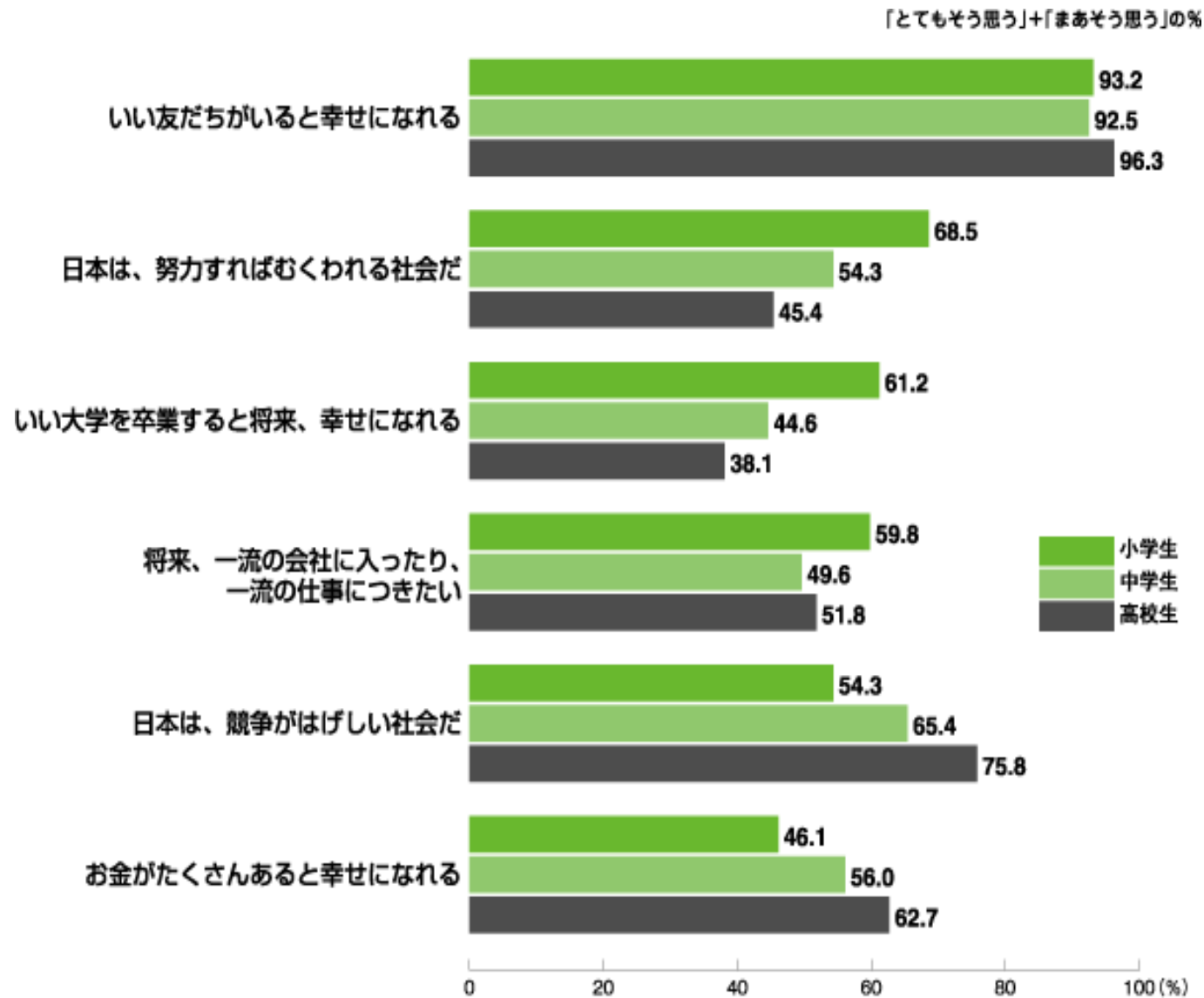


注1) 「かなり満足している」+「まあ満足している」の%。

注2) 小1～中3生の数値。

注3) 14項目中、7項目を図示した。「生活面のしつけや指導」は2002年、「英語の力をつけること」は2002年・2007年には該当項目なし。

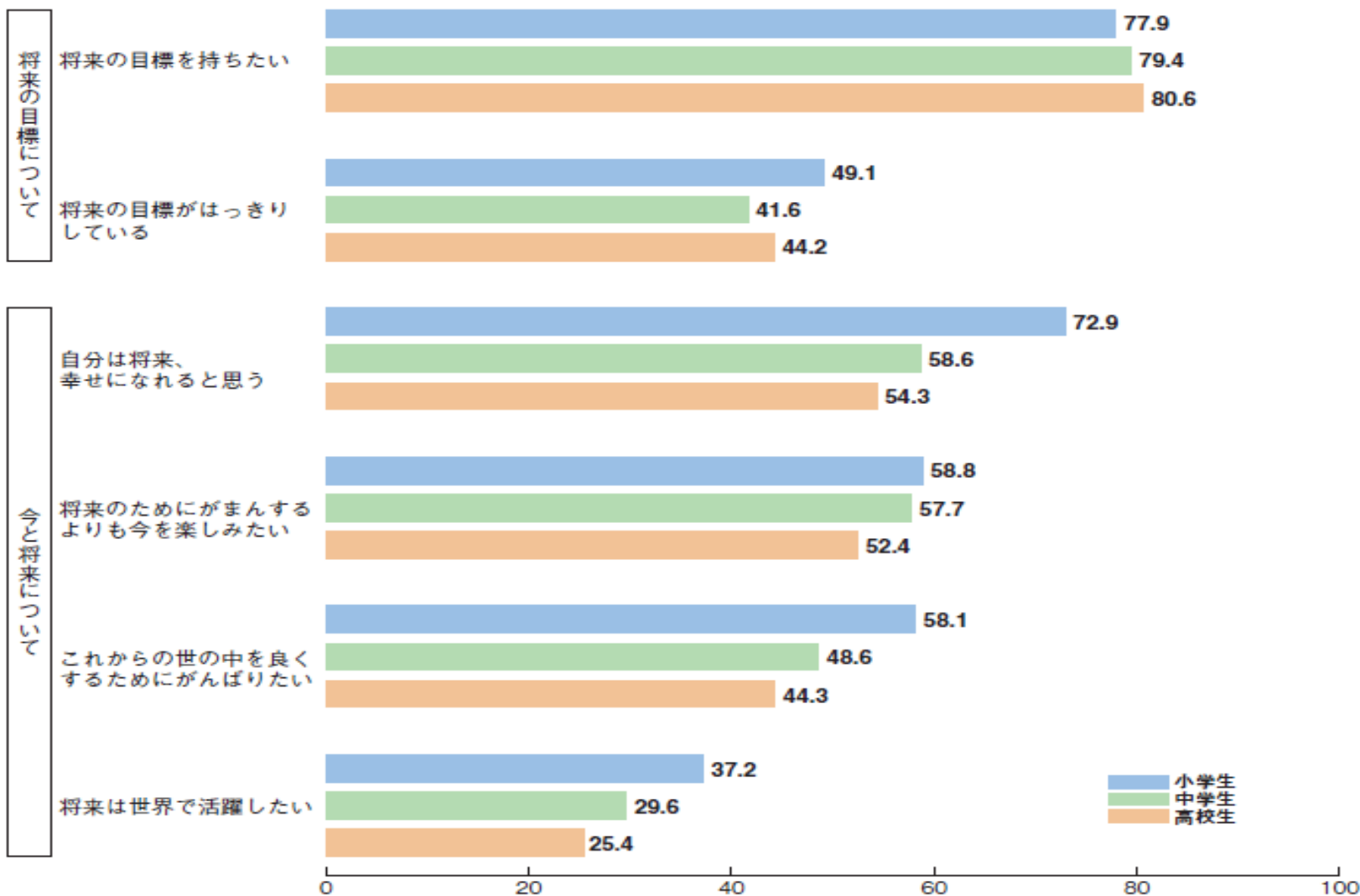
社会観



将来について

Q. あなた自身について、次のことはどれくらいあてはまりますか。

図5-1 自分の将来について思うこと



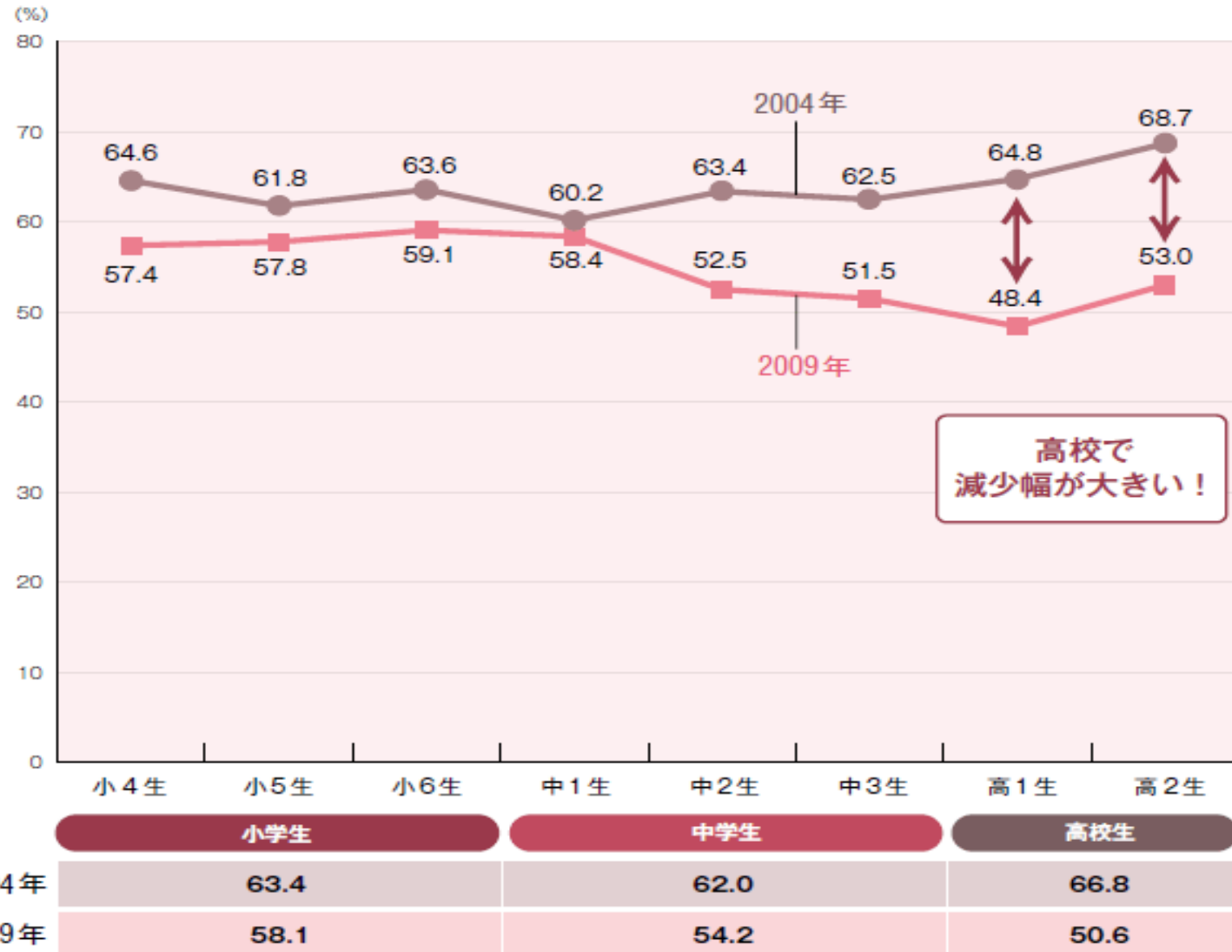
第2回子ども
生活実態調査
(2009)

全国大都市、中都市、
郡部の学校通し
小4～高2
小学生3561名
中学生3917名
高校生6319名
計13797名

なりたい職業の有無

なりたい職業が「ある」子どもが減少している。

Q. あなたには、将来なりたい職業はありますか。



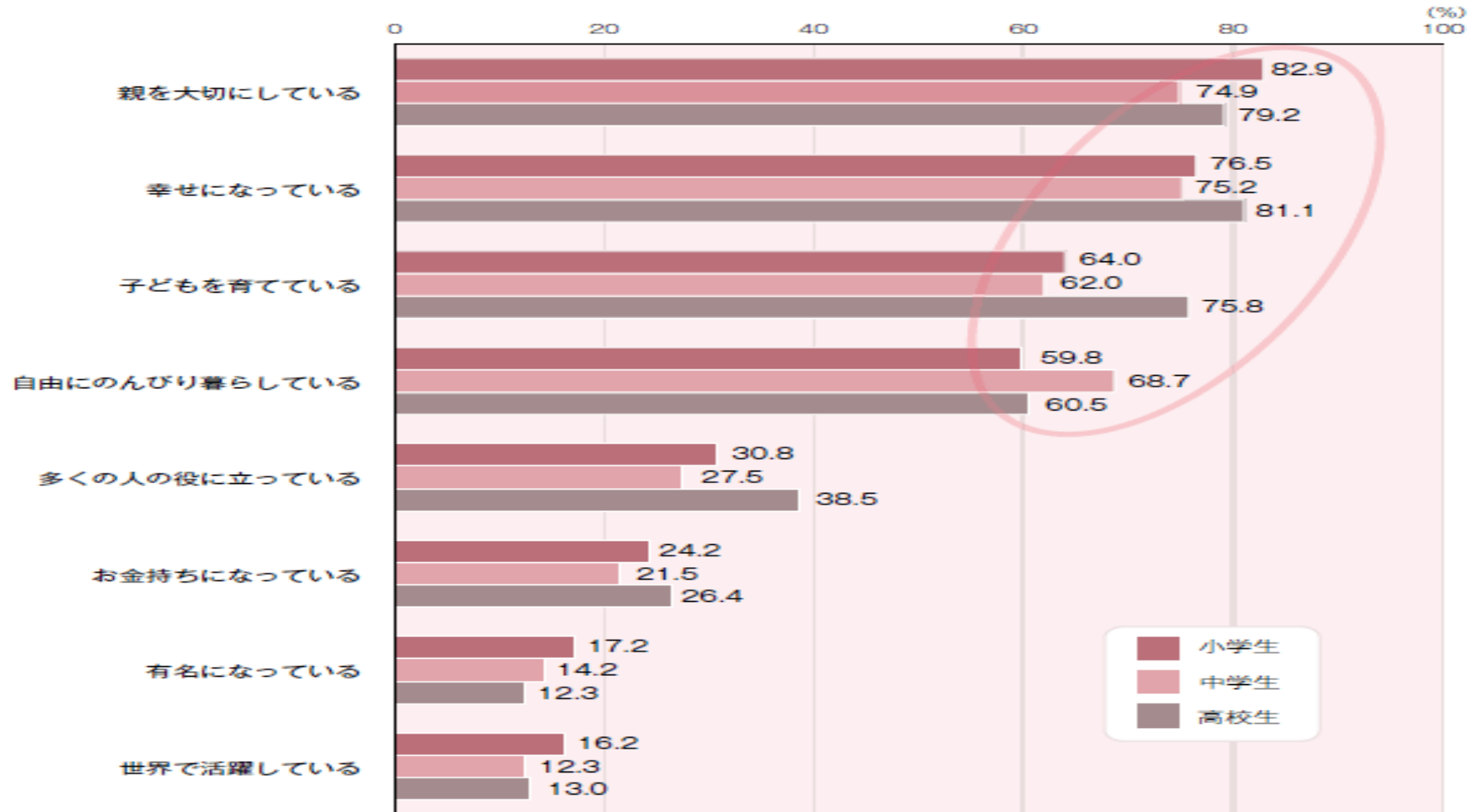
注) なりたい職業が「ある」と回答した%。

(%)

将来像

「世界で活躍している」「有名になっている」よりも、
身近で現実的な将来を描いている。

Q. あなたが40歳くらいになったとき、次のようなことをしていると思いますか。

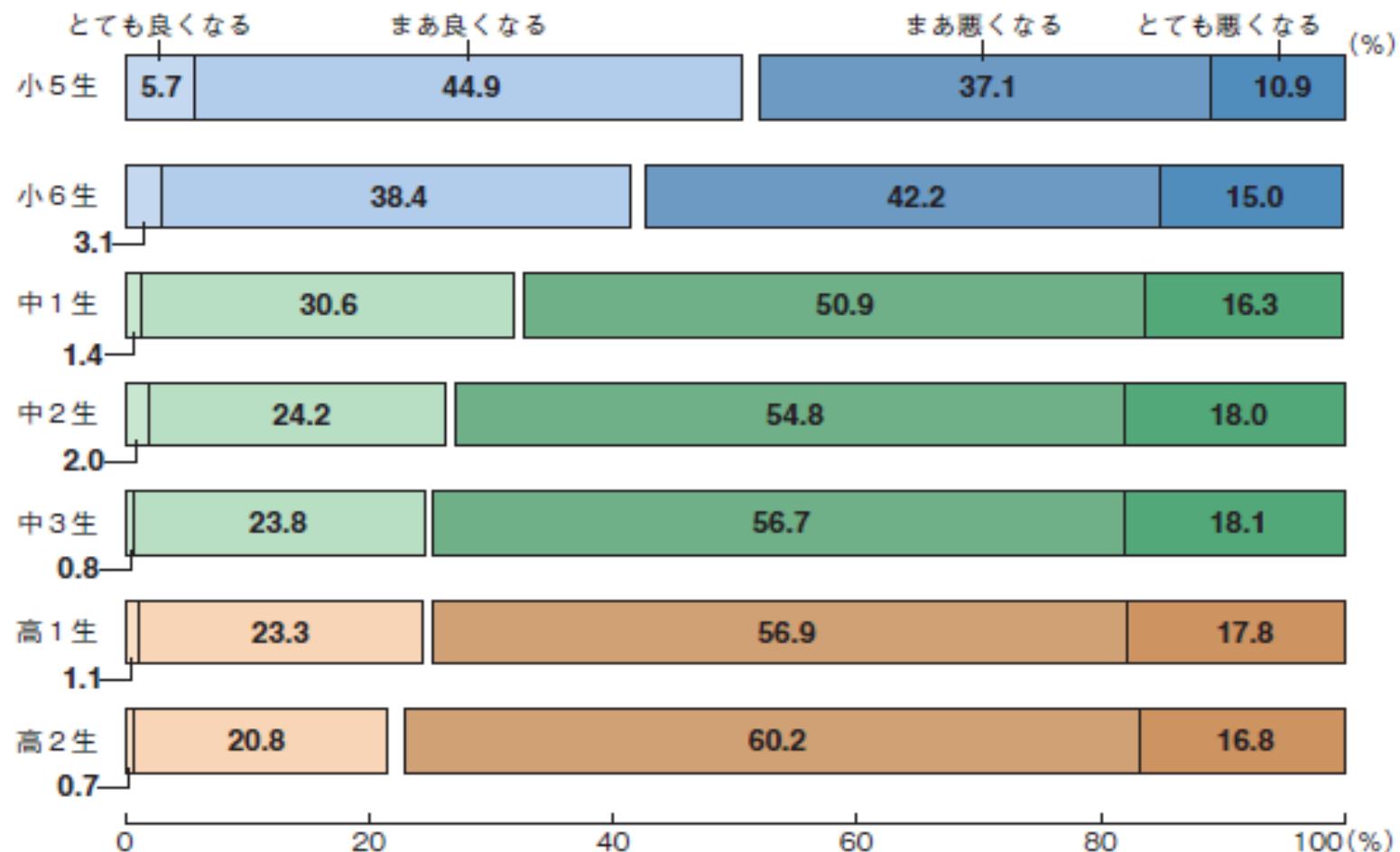


注1) 「とてもそう思う」 + 「まあそう思う」の%。
注2) この質問項目は2009年調査のみでたずねている。

日本社会について


Q. これからの日本社会が、良くなると思いますか、悪くなると思いますか。

図5-2 これからの日本社会について



まとめと課題

1. 5 - 4制は「どちらともいえない」が多かった。
2. 小中一貫校は、「反対」より「賛成」が多かったが、保護者や一般教員の約半数は意見を明確にしていなかった。
3. 教科担任制は、「賛成」が多かった。
4. 何らかの小中連携を行っている学校は2～3割程度(2010年)。
5. 教員の多忙感が増しているが、仕事への満足度は高まっている。
6. 学力は改善傾向にある。
7. 学力格差、学習意欲の低下が、高校段階で顕著である。
8. 小中学校段階でも、学力格差の拡大が懸念される。
9. 学力格差と経済格差の連鎖が懸念される。
10. 親の関与が増している。
11. 保護者の学校への満足度は向上している。
12. 子どもの社会観に悲観的な傾向がある。

 これらの課題に、小中連携、一貫教育がどのように機能するか。期待する子どもの変容を可視化するための指標をつくり、改善のためのPDCAサイクルができないか。「生きる力」の指標化？

Benesse[®] 教育研究開発センター
Benesse Educational Research & Development Center